▲　季節は忘れていません　そろそろ見ごろ　（１１月３日撮影）

慧光

金光寺寺報
第２３３号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月法語カレンダーのことば

拝（おが）まない者（もの）もおがまれている　拝（おが）まないときもおがまれている

東井義雄（とういよしお）師の最晩年の詩集にある言葉です。詩は次の通りです。「『無理をせんといてください』『無理をしないで休んでいてください』腰が曲がってひどく小さくなってしまった老妻（ろうさい）に何べんも気づかってもらいながら土手の草を刈る　何だかうれしくて　何だかしあわせで……　『拝まない者もおがまれている　拝まないときもおがまれている』『ここが　み手のまんなか』と、土手の草を刈らせてもらう　何だかうれしく何だかしあわせで……」。

この詩では、一組の老夫婦の日常が描かれています。土手の草を刈る私に、腰の曲がった老妻が声をかけてくれるのです。

漢字の「拝む」は私の動作です。それをひらがなの「おがむ」にすると、よほど表情が柔らかになります。続いて「ここがみ手のまんなか」とありますから、もちろんこの「み手」は仏さまの「み手」をあらわしています。「おがむ」というはたらきは、あくまで仏さまのはたらきなのです。さらに気をつけなければならないのは、「み手のまんなか」ですから、仏さまは手を合わせて私を拝んでいらっしゃるのではなく、「み手」のなかにこの私を包み込んでいらっしゃる、というのです。「み手」というのは、もちろん比喩（ひゆ）、象徴的な表現で、阿弥陀さまの大いなるはたらきをあらわしています。東井師は仏さまの「み手」を直接感じ取っておられるのではありません。「無理をせんといてください」「無理をしないで休んでいて下さい」という、妻の声の上に、仏さまのはたらきを味わっておられるのです。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

金光寺のひと月

十月

一日　田中徳光様　三・七日忌
　　　津隈ツキ子様　葬儀
　　　津隈ツキ子様　初・七日忌
二日　津隈ツキ子様　礼参り
三日　当山前坊守釋妙順　祥月
　　　渡邊フク様　五十回忌
　　　渡邊武春様　十三回忌
　　　藤田萬八様　三十三回忌
四日　梅田重馬様　十七回忌
五日　秋参り（三十三軒）
六日　秋参り（六軒）
　　　那須トヨ様　六・七日忌
　　　長舘耕二様　十七回忌

八日　田中徳光様　四・七日忌
　　　梶原　聖様　三・七日忌
　　　秋参り（一軒）
九日　秋参り（二十五軒）
十日　秋参り（四軒）
十二日　那須トヨ様　満中陰・納骨
　　　津隈ツキ子様　二・七日忌
　　　秋参り（十五軒）
十三日　第四回組長会（宮崎市）
十五日　田中徳光様　五・七日忌
　　　梶原　聖様　四・七日忌
十六日　宗祖親鸞聖人　月忌
十八日　当山前住職釋依章　祥月
　　　吉岡義教様　十七回忌
　　　木村ミヨ子様　一周忌
　　　熊川あきみ様　三回忌
十九日　津隈ツキ子様　三・七日忌
二十一日　藤島フヂ子様　二十五回忌
二十二日　田中徳光様　六・七日忌
　　　梶原　聖様　五・七日忌

二十三日　鶴川吉子様　十七回忌
　　　直野一夫様　七回忌
二十四日・松本　清様　二十五回忌
　　　松本福義様　七回忌
　　　松本ハルエ様　五十回忌
　　　秋参り（一軒）
二十五日　藤木　茂様　七回忌
　　　古小路建美様　満中陰
　　　成松フク様　通夜
二十六日　成松フク様　葬儀
　　　成松フク様　初・七日忌
二十七日　成松フク様　礼参り
　　　波帰地区恩講（十一軒）
二十八日　梶原　聖様　六・七日忌
　　　田中徳光様　満中陰・納骨
　　　全国組長会（宮崎教務所）
二十九日　子ども・若者ご縁づくり（研修会（宮崎教務所））
三十日　馬見原地区秋参り（五軒）
三十一日　甲斐ケサ子様　七回忌
　　　梶原　聖様　中陰・納骨

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事はお受けできません。ご協力をお願いします。

◎　１１月
　　１３日（終日）

◎　１２月
　　２日～３日
　　２２日（終日）

２０２１年

◎　１　月
　　４日～６日
　　１２日～１４日

10月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。
２０２０年１０月２４日満９４歳
笠部上　成　松　フ　ク　様

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　https://konkouji.jp/
11月4日現在アクセス数　109,870人

住職ひとりごと

当山が位置する公民館区、第十区恒例の体育祭が例年どおり十一月三日に行われました。毎年、朝から夜（？）まで参加していましたが、今年は仏参があり不参加でした。ただ、最後のリレーだけは見ることができました▼過疎のため、若い人は増えません。かってのアスリートランナーがしょうがなく走っていましたが、往年の姿は見る影もなく、昨年の私も今年走られた皆さんと同じく転ばないように、けがをしないようにとの思いで安全運転（見る影もない）の走りをしていたのかなと思ったことでした▼こう書くと失礼かもしれません。力の限りの走りだったとおっしゃる方がおられるかも。もしそうだったらお許しください。でも、二十人くらいのリレーでしたからそんな皆さんの存在がなければリレーはできなかったでしょう▼今年は参加者数も少なかったように感じました。五十回を超える大会ですが、あと何年できるのかな！一度やめると復活はかなり難しいし、「継続は力なり」ということを改めて感じます。来年に向けてトレーニングを夢の中で！（住職　松井卓郎）